



国民の森林・国有林

ハートマーク 桜の記念植樹を開催



【熊本森林管理署】山鹿市菊鹿町内にある横尾国有林36コ林小班の伐採跡地は、もともとの形状はハートマーク形ではありませんが、現地の地形等の関係で市街地からはハート形に見えることから、昨年6月に地元テレビで取り上げられ大きな話題となりました。

当署では、このハートマークを活用して何か地域貢献出来ないかとプロジェクトチームを立ち上げて検討した結果、新型コロナウイルス禍で結婚式を挙げられなかったり、延期しているカップルなどに参加してもらいハートマークの輪郭部分に植樹してもらえれば、一生の記念になる

当日は、地元の中嶋憲正山鹿市長、松本憲二郎鹿本地域振興局長、務課長津々見正樹日本森林林業振興会熊本支部長、秋吉郁夫秋吉林業代表取締役等の来賓に加え、昨年11月に公募した31組

62名のカップルのボランティア、また九州森林管理局から小島孝文局長、木林静夫森林整備課長、山崎武造林係長が出席し、当署関係者16名を含め総勢90名の出席のもと開催しました。



開会式の様子

開会式は、このハートマークを活用して何か地域貢献出来ないかとプロジェクトチームを立ち上げて検討した結果、新型コロナウイルス禍で結婚式を挙げられなかったり、延期しているカップルなどに参加してもらいハートマークの輪郭部分に植樹してもらえれば、一生の記念になる

当日は、地元の中嶋憲正山鹿市長、松本憲二郎鹿本地域振興局長、務課長津々見正樹日本森林林業振興会熊本支部長、秋吉郁夫秋吉林業代表取締役等の来賓に加え、昨年11月に公募した31組



植樹するカップル



植樹後の将来イメージ



参加者全員で記念撮影

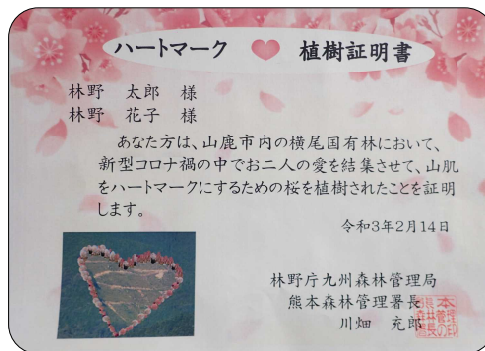
念植樹イベントにしましょう」との主催者挨拶の後、2月19日で勇退される中嶋市長から来賓を代表して挨拶を頂き、来賓者の紹介を行いました。また、濱田祥吾森林整備官と川口凌真森林整備官補から植樹時の留意事項等の説明を行った後、参加者全員で遠くに見えるハートマークをバックにして記念写真の撮影を行いました。

その後、参加者は4班に分かれて植樹箇所までバスと徒歩で移動して、陽光桜（春に鮮やかなピンク色の花が咲き、秋には葉が赤く紅葉するのが特徴）200本を植樹してもらいました。参加者は、立春の穏やかな日差しの中で急な斜面に悪戦苦闘しながら作業を行い、目印のL杭に記念となるように自分らの名前や植栽日と一緒に思い思いの言葉を添えて写真撮影を行いました。

また、参加したカップルには記念になるように署長名で植樹証明書を発行しましたが、参加者からは、「一生の記念になった」「すばらしいイベントだった」などの多くの感謝の言葉を頂くとともに、このイベントを通して職員がチーム熊本となつて総力を結集して実施できた一体感と達成感を醸成することが出来ました。なお、当日の植樹の様子は、マスコミの取材を受けテレビ、新聞で報道されるとともに、さらに後日にはラジオの生放送で取材を受けるなど、当署及び国有林野事業の取組をPRすることが出来ました。そして今回の植樹により、大きさが約1.1haと日本でも最大級の巨大なハートマークが出来上がり、これから日本全国の恋人達の新しい観光スポットになることが期待されます。



ラジオの取材を受ける川畑署長



カップルへの植樹証明書



発表会の動画を視聴する参加者

【宮崎南部森林管理署】新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催も危惧されましたが、マスク着用、1机1着座に配慮するなど感染防止対策を行い、2月15日に日南市森林整備計画書を支援すべく、南那珂農林振興局林務課・日南市・南那珂農林組合・宮崎南部森林管理署併せて13名で日南市森林整備計画樹立に向けた支援会議を開催しました。会議では、今年度九州局でオンライン方式（動画発表・Skypeを利用した質疑応答）で開催された森林・林業の技術交流発表大会及び、林

ハートマークの森

野庁でWEB開催された国有林野事業業務研究発表会の発表動画をみて頂き、最新の研究状況を学ぶとともに意見交換を行いました。

今までは、発表大会会場に行かなくては見れなかったものが、今年度は動画発表形式で行われたため発表内容が動画で見られる貴重な機会でした。まず、当署発表課題2課題を見た後、見たい発表課題を選んで視聴しました。

最近話題となっているICT機器を活用した発表は、大変参考になったとの意見もありました。

こうした全国で取り組まれている最新の情報を学びながら、次期の日南市森林整備計画樹立に向けての有意義な会議となりました。



意見交換会の様子

令和2年度国林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催 地域の森林・林業における課題等について意見交換

2月16日に「令和2年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催しました。

この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林が所在する地域の市町村長（代表世話人）及び九州森林



挨拶をする小島局長

管理局長、代表森林管理署長等で構成される協議会であり、毎年集合形式で開催していましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、オンライン方式による開催となりました。

会議冒頭、小島孝文九州森林管理局長から、「林業・木材産業について、新型コロナウイルスの影響により短期的には不透明な部分が大いだが、中・長期的には、森林や木材利用に対する国民の関心が高まり、自然豊かな地方の役割や林業・木材産業の成長産業化への期待が益々高まっていくものと確信している。当局として、伐採後の造林未済地の発生、深刻化するシカ被害、担い手の確保など各地域の課題解消を図るため、国有林の技術・人材・フィールドを活用し民有林行政を後押ししていくことも国有林が地域に根ざし



オンライン方式による意見交換の様子

た存在として、地域の発展や住民の安全・安心の確保に貢献していきたい。これから各地域の課題について意見交換し、国有林の管理経営の参考とさせていただければと考えているので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います」との挨拶がありました。また、林野庁から関口経営企画課長外2名が出席し、林野庁の主要な取

組や令和3年度予算の概要等について説明が行われました。その後、各代表世話人より、各県単位で開催された有志協議会のご報告や、森林環境譲与税の活用方法、シカ・イノシシなどの鳥獣被害対策の強化、防災対策など各市町村における森林・林業に係る課題等についてご発言いただいたほか、確実な再造林の実施などについて意見交換を行いました。

最後に小島局長より、「今後とも国有林の事業運営が、それぞれの市町村における地方創生につながっていくべきという思いで取り組んでいく考えであり、引き続き、各市町村とも緊密な連携を図っていきたい」との発言があり、盛会の中で終了しました。

九州森林管理局では、いただいたご意見やご要望を踏まえ、関係市町村との連携を深め、地域の森林・林業・木材産業の活性化に向けて取り組んでいく考えです。

（担当：企画調整課）

「山の日」記念 第16回森林のアートギャラリー

「森林」の多面的な役割や私たちの生活との関わりなどについて自由に表現した「森林のアートギャラリー」を九州森林管理局と（一財）森林林業振興会熊本支部との共催により実施しました。

今年のテーマは「未来へつなぐ森林」。平成26年に制定した山の日の意義「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」を基に、森林を大切



九州森林管理局正門：最優秀賞作品の展示風景

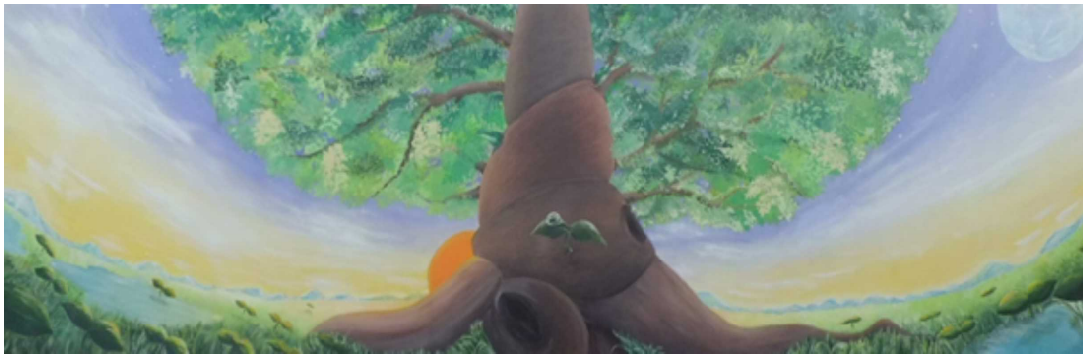
例年受賞式と除幕式を執行していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止としました。

作品は、最優秀賞作品を九州森林管理局正門、優秀賞作品を東側フェンスに設置しています。

これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域の方から好評を得ています。自然や森林について考えてもらうことを期待し、今後2年間展示します。

なお、今回の受賞作品は次のとおりです。

（担当：技術普及課）



【最優秀賞】

「未来を紡ぐ夜明け」
熊本市立 清水中学校
美術部1・2年生



【優秀賞】

いのち

「光が照らす生命」
熊本大学教育学部付属中学校
美術部1・2年生



【優秀賞】

「明日(あす)」

熊本市立 西山中学校
美術同好会1・2年生

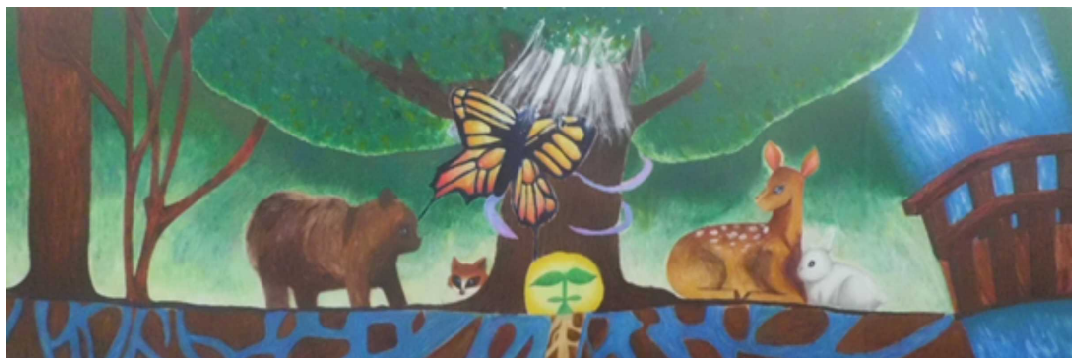


【優秀賞】

「Koyori no Koto」

熊本市立 東町中学校

美術部1・2年生



【優秀賞】

「繋がる」

熊本市立 北部中学校

美術部1・2年生



【優秀賞】

「森との約束」

熊本市立 桜木中学校

美術部1・2年生

民有林行政の支援について
地域林政アドバイザーの育成に向けた国有林の取組

2月5日、熊本県主催による地域林政アドバイザー研修が熊本森林管理署管内の荒強当国有林157林班外において行われ、地域林政アドバイザー候補者、市町村林務担当者、県庁及び県出先機関職員のほか、本局及び熊本森林管理署から若手職員を含め総勢32名が参加しました。

本研修は、森林経営管理制度の円滑な運用に向けた市町村の森林・林業行政支援の一端として熊本県が実施しているもので、昨年度から、国有林職員の講師派遣及び国有林のフィールド提供を行っています。

研修では、技術普及課福山拓也企画官（民有林連携）より当該研修地の概況について、資源活用課金津圭介課長補佐より間伐の実務及び路網の役割、高性能林業機械を用いた作業システム、森林作業道の作設のポイント等について、森林整備課後藤寿也課長補佐より造林事業における地植え、植付け、下刈等の各種作業の役割や実施方法、造林事業請負の完了検査等へのドローンの活用による業務の効率化に

ついて実演を含めた講義を行いました。

研修生の中には、初めて林業を学ぶ方も参加されており、各林業機械の機能や性能等に関する質問がありました。

今後、本研修に参加した地域林政アドバイザー候補者が地域林政アドバイザーとして、地域の林業・木材産業の成長産業化や地方創生に向け活躍されることを期待しています。引き続き本局では、国有林の持つ技術・人材・フィールドを活用し、市町村の森林・林業行政の支援に取り組んでいくこととします。

（担当）技術普及課

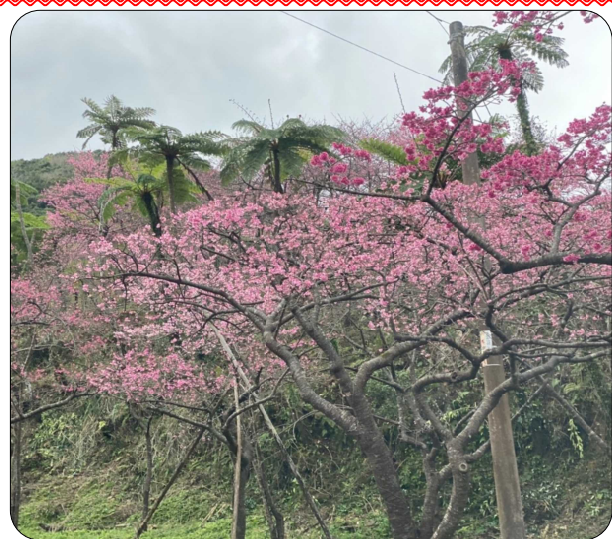


現地研修の様子



梶谷 卓弘さん

私の生まれ育った瀬戸内海の広島は、風光明媚で温かな地域だったと思う。春夏秋冬その時々、旬の食材が多く、春の鯛や筍、夏は蛸、秋ともなれば鯛やマツタケ、そして極め



八重岳の緋寒桜

『環境保全』 森林保護と海洋資源の循環

つけは冬の牡蠣やレモン、白菜があり、あげればまだまだ沢山あるが、食が細くなつた今の私には少量を少しずつが似合っていて、各旬の時期

の楽しみでもある。山の幸海の幸は60年経った今でも、量は少なくなつてきているようだが健在だと思ふ。子供の頃から山に入り、海で遊び

の20年間は離島を含めた九州8県全域の山間部や市街地・工業地域・海岸地域等で国土強靱化のため防災減災事業に携わってきた。仕事以外で

れる。将来を担う人々のために、一人ひとりが今できることから少しずつ行動を起こすことが重要だと感じている。環境保全に興味を持ち、将

自然の中で環境のことなど何も考えずに小学・中学・高校と年を重ねて来た。大学に入り土木工学の道に進み土質工学を学び卒業後は道路関係の会社に就職。北海道から沖縄まで多くの土地で40年余り道路に関わる仕事に従事してきた。今現在は単身赴任で沖縄での生活だが、福岡中心

も各ボランティア活動や植樹祭・水と緑の森林づくりなかでも山・街・海でのクリーン活動には積極的に参加してきた。我々人間の存在のための衣食住の全てに『自然』は関わっていて、現在を生きる人間の努力の如何によって自然環境は良い方向にも悪くとも向かうと思わ

来の子供達の為にも我々の活動が重要だと、今回の国有林モニターになり感じた。今後今住んでいる沖縄の大地や自然に感謝し日々の生活を送ろうと思う。
（沖縄県在住）
沖縄のヤンバルの森と青い海が大好きな県民より。



園児に説明する寺田森林技術指導官

【宮崎南部森林管理署】2月19日に日南市・四季の子供園の年長さんのお別れ遠足が、木育の一環として鉄肥杉のミステリーサークルで、年長きりん組21名、保育士5名、ガイドボランティア5名、ドローンインストラクター1名、宮崎南部森林管理署職員5名の37名の参加により、開催されました。
当日は寒い日でありましたが、寺田雄一郎森林技術指導官の簡単なオレシヤミステリーサークルの説明を受けたあと、

お別れ遠足で ミステリーサークル！



ミステリーサークルの中心を見上げる園児達

北郷森林ガイド「いつつ木の案内で登山を開始し、急な勾配の歩道を園児達は頑張って歩きました。」

サークルの中心に全員がたどりに着いてから先生の合図で一斉に見上げると、見たことのない不思議な景色に「わー！」と園児達の歓声が上がりました。



ドローンのバーチャル体験をする園児の様子

その後、下山しドローンのバーチャル体験（VR体験）です。インスタラクターの水口さんから説明を聞き、VRを装着し先ほど実際に歩いて行ったばかりのミステリーサークルを園児達は上空から眺めて見る大きな一つのミステリーサークルに歓声を上げていました。

また、宮崎日日新聞社ほか報道関係者も取材に來られ、翌日の新聞にも『杉が同心円状に並ぶ訳を「植栽密度による成長過程の違いを調べるため」と聞いても園児には理解が難しかったようで「小学校で勉強したらわかるかも」謎解きはまだまだ続く様子」と掲載され、YouTube日南テレビでも放映されました。



ヤクシカワーキンググループの様子（九州森林管理局会場）

2月9日・10日、今年度第2回の屋久島世界遺産地域科学委員会と同委員会のヤクシカ・ワーキンググループ（WG）会議をWEB方式により開催しました。

9日のヤクシカWGでは、事務局を代表して小島森林管理局長が挨拶した後、屋久島町、鹿児島県、環境省及び当局から、今年度の取組結果及び来年度の取組予定が報告されたほか、矢原委員長からはヤクシカの集団遺伝構造の解析結果の続報の情報提供がありました。委員からは「河川界区分毎に面積や植生が違っているので、目標とする生息密度が違ってくる。河川界区分毎にどこを目標しているのか明確

令和2年度第2回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

にする」と捕獲計画を立てやすくする」、「シカ対策により植生回復を図る西部地域については、しっかりと捕獲やモニタリングをしていく必要がある」などの意見が出されました。



ヤクシカワーキンググループの様子（屋久島会場）

どの概要、来年度の各種調査計画、高層湿原保全対策検討会の取組状況に加え、世界遺産地域管理計画の見直しの考え方などの説明が行われました。委員からは「地域連絡会議のメンバーに地域団体等を含めるのは良い考えである」と

る」「屋久島は島全体が遺産地域のバッファゾーンとなっており、観光業以外の人たちの意見も取り入れるべき」「IUCNの評価に反映されるよう科学委員会から意見を出すべき」「利用（エコパーク）と保全（世界遺産）の考え方を示すべき」などの意見が出されました。

九州森林管理局では、こうした意見を踏まえながら、引き続き関係機関と連携を図り、屋久島世界遺産の適切な保全管理に取り組んでまいります。

（担当：計画課）



科学委員会の様子（九州森林管理局会場）

都会の中の憩いの森
**監物台樹木園の
 多様な植物**

160 オンスツジ科

花がひときわ大きいので目立ちます。天草の白嶽周辺でネイチャースクー開催の下見へ行ったら、口に、キャンプ場の入り口周辺にたくさんのおんツツジの赤色の大きな花が満開だったのが、今でも脳裏に焼き付いています。

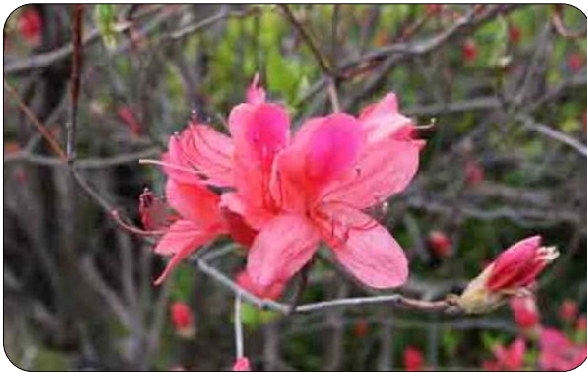
オンスツジはラッパ状の代表格で、花が4〜5cmと大きいので観察しやすく、詳しくみることでできます。

花冠は5裂し、上側の鱗片には濃い斑点があり、蜜標の役目を果たしています。蜜標とは昆虫にここに蜜がありますよと知らせる印です。ラッパ状に咲くツツジに、この蜜標が必ずついています。

オンスツジは海岸沿いの暖かい地方の本州の紀伊半島、四国、九州に分布しています。ツクシアカツツジともいわれ、特に天草には多く、春に遠くから目立って見える赤い花はたいがいオンスツジといわれています。

森林インストラクター

安楽 行雄



先日同期が銃で捕らえたエゾシカ肉をいただいた。しゃんのお包みさされた、肉を切り分けたりミンチにしているのは、なかなか普通の料理では味わえない。ドキドキ感があった。味は、強くと食感と風味の癖が料理よりも今一つ。肉の特徴に合わせた調理が得意なわけではないものに後悔をぬぐい、と言ってもらえたので安心、感謝である▼ところで、場所とアイデンティティをくっつけて生きてきた身であるから、どうしても喪失感にみまわれ、どうしようもない。感覚の喪失というものは、感覚の問題で、実際に仕事でも、それ以外でも、あらゆる方面との関わりから染み付いたことは、頭と体から染み付いたことは、よく感じることが屋移りの多い職に就くところか、最近思っている。▼ちなみにも、原稿を書いた今でも、早く抜けてほしい。肉の匂いは早く抜けてほしいけれど。

【桐】